

嵯峨野高校校有林の健康診断 ー林分材積、胸高形数、相対幹距比ー

Health Assessment of Forests -Standing Timber Volume, Breast height form factor, and Relative spacing index -

*青木 佑璃¹、久富 蒼天¹

*Yuri Aoki¹, Sora Hisatomi¹

1. 京都府立嵯峨野高等学校

1. Kyoto Prefectural Sagano High School

嵯峨野高校校有林（以下、校有林）の一部は、樹齢70年以上のスギ・ヒノキ混合林であり、主伐期（収穫適齢期）を過ぎようとしている。

本研究では、校有林の階層構造を把握し、今後の間伐や植林に向けた検討材料を整えることを目的とした。

ポイントサンプリング法（Bitterlich, 1947）により、校有林内の林分胸高断面積を算出し、林分材積と胸高形数を推定した。また、胸高直径および平均樹幹距離を実測し、相対幹距比を求めた。

本発表では、測定結果を報告するとともに、校有林を題材とした先行研究と比較検討することにより、校有林における持続可能な森林管理について論じる。

キーワード：スギ・ヒノキ混合林、森林管理、収穫適齢期、階層構造

Keywords: Cedar and cypress mixed forests, Forest management, Optimal rotation age, Hierarchical structure